

ねらい

【5歳児(校区内の就学前施設3園)】

○小学校への期待感や親しみをもち、地域の同年代の友達や小学生とのつながりを感じる。

【1年生】

○年長児と交流し、自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

○事前打ち合わせ 小学校にて R8.1.6

小学校(幼保小接続主任・1年生担任3名)

伏見南浜幼稚園(園長・教頭・5歳児担任)

桃陵保育所(園長)・伏見幼児園(主任)

① 日程調整 ② 『1年生は楽しいよ』の会に園児を招待する方法 ③ 交流の体制 について相談

→②については、当初動画を送ることとなっていたが、幼稚園側から直接顔を見るほうがより親しみをもてるのではという意見から、3園に直接招待状を渡しに来るという方法に変更された。

*振り返りを共有したい思いから、交流後小学校の教諭が幼稚園に来て振り返りを行った。

実践内容

*以下、☆幼稚園の環境構成 ♡幼稚園の教師の援助 ★小学校の環境構成 ♥小学校の教師の援助 と記す。
10の姿は (1)健 などと表記する。

○2月25日(水)招待状を小学生からもらう→「何か返したい!」という思いから♡お礼に歌を届ける・招待状の文字を読みたい!



「2月27日きてね」
★1人1枚の招待状

《園児の反応》

「むかしあそびってかいてある!」

「これなんてよむの?」

→文字をよみたい! 文字への関心・意欲の芽生え



○27日(金)交流当日



・「小学生みたい!」と算数プリントをしてみる園児 (6)思(8)数
・ランドセルをもったり、タブレットを見たりする園児 (5)社
・図書室で読み聞かせをしてくれる小学生 (8)数(9)言

♥幼保の子ども達を喜ばせたいという気持ちを認め、励ます。

♡小学生が意欲をもって、幼児に伝えようとしている姿をみて嬉しかった
思いを小学生・クラス・小学校の教職員に伝える

→みんなで振り返りをする時間をもてたらよかったのでは?という意見
が教職員の中でうまれた

○3月6日(金)お礼の手紙を渡す→観察池で小学生と会い、生き物を探す自然なつながり



「ありがとう」の言葉を伝えたい!

☆みんなで一枚の手紙をつくる

↓ その日の午後

観察池にて…同じ生き物を探す!自然な
つながりが生まれる

♡小学生の名前を教師が呼びかける

♡その様子を小学校の教職員にもメール
で共有し、伝えるようにした。



交流を振り返って

子どもたちの姿から、1年生との交流を通して小学校への親しみがより高まっていた。算数プリントを手に取り「小学生みたい」と勉強に意欲を見せたり、図書室で「こんな本を借りられるんだ」と期待をふくらませたりする様子があり、小学校への楽しみが一層強くなっているようだった。その嬉しい思いから、お礼の手紙を書きたいという声から子どもたちから出たため、クラスで1枚の手紙(写真付き)をつくり、小学校の教職員にお伝えしたところ、交流の1週間後に1年生へ気持ちを届けることができた。子どもも教師も活動や遊びを振り返ることが大切であるため、交流当日に子ども同士で振り返る時間を確保したり、教師も振り返りの視点を絞って共有したりして、事後研修ができればよかったのではないかと反省があった。

交流後には、観察池で子どもたちがつながる姿も見られた。幼の教師が積極的に小学生の名前を呼ぶなどして輪の中に入り、関わりをつくることも、園児が小学校を身近に感じるための大切な援助の一つであると考えられた。